



(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/403
即時解禁
2011年11月8日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による ロシア訪問終了にあたっての声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、モスクワで以下の声明を発表した。

「この度の2日間に渡るモスクワ訪問の間の、ロシア当局の手厚い歓待に深く感謝する。ロシアと IMF は、素晴らしいパートナーシップを構築してきたが、今般の訪問において、我々の関係を一段と強化するための方策について、意見交換を行うことができたことを非常に嬉しく思う。

また、ドミトリー・メドヴェージェフ大統領、イーゴリ・シュワノフ第一副首相、アントン・シルアノフ財務相代行をはじめ、ロシア当局関係者と会談する機会を得たことを大変光栄に思う。

我々は、世界経済、特にユーロ圏が直面している深刻な問題とその欧州新興国への影響について協議を行った。とりわけ、このような世界動向の、ロシアの経済見通しおよび政策の優先課題への影響について、話し合うことができた。

世界金融危機の発生当初より、ロシアは経済面での防御機能の強化に向け複数の措置を講じてきた。しかし今日、ロシアは脆弱性の可能性に対処すべく、更なる措置を取る必要がある。石油価格が高い間に財政ポジションの強化に努めることが、同国の優先課題である。これに加え、低インフレを引き続き重視するとともに、銀行監督機能を強化し、投資環境の改善に努めることが求められよう。

現下のそして今後のリスクに効果的に対応することが、十分な雇用を生み出し全ての人々に利益をもたらす、より持続的な高成長というロシアが必要としている未来へと、同国を導いていくことになろう。

同時に、世界の経済の主な議論の場に参加することにより、ロシアが世界経済で果たしている重要な役割についても話し合った。ロシアは G20 および IMF の主要参加国であり、IMF においては、10 大出資国に名を連ねている。

最後に、モスクワのロシア連邦政府付属財政アカデミーに招かれ演説を行い、学界関係者、シンクタンクの代表、および学生と会うことができたが、なかでもロシアの優秀な若者と話をする機会を得たことを感謝する。

ロシア当局および国民の皆様の温かい歓迎に心より感謝する」